

終末は近いのか



「百貨店主と呼ばれたジョン・ワナメーカーはあるとき、伝道者ビリー・サンデーを案内して、自分の所有する大きな百貨店を見せ、こう言いました。『この店の中のものならば、何でもお好みにしたがつて差し上げます』。しかしビリー・サンデーの求めたものは、『この世界最大のデパートの所有者の友情』でした。

今、多くの人々がモノを求めて、この世界にモノよりも尊いものがあることを忘れていきます。この世界を所有し、人を愛しておられる神の友情は人間の求め得る最高のものです。

あなたの選択は、あなたの生涯を決定するばかりでなく、家庭の幸福、社会の将来、国家の運命を決定するものとなります。今日、私たちの生活をきよめ、社会を救うのはイエス・キリストの福音よ

り他はありません。この救いの福音こそ、今日の全世界にあるすべての問題に対して完全な解決を与えるものです。たとえ困難があるようにみえても、神に従う道は喜びに満ちたものであり、その彼方には永遠の希望と神の栄光が輝いています」
(山形俊夫)。

この通信講座は、キリスト教の背景のない人々のために山形俊夫博士によって著されたキリスト教入門書『真理への道』（福音社）を通信講座用に編集したものです。1952年（昭和27年）に発行された名著が65年ぶりに通信講座となってよみがえりました。この通信講座を学ぶ皆様、イエス・キリストにある恵みと救いの福音に触れることができるようにお祈りいたします。

この講座を勉強する方へ

- ・もしお持ちであれば、聖書を手元に置いて学びをはじめてください。
- ・最初に本編をお読みください。
- ・設問用紙は真ん中のページにあります。ホッチキスを外すか、コピーしてください。
- ・設問用紙に答えを記入し、郵送・FAXなどでご返送ください。
- ・添削した設問用紙と次のテキストをお送りします。
- ・その他、具体的なことは、担当者にお問い合わせください。



終末は近いのか



神の計画の地上における実施は、人間を対象としているので、神は人間にその計画を示されると同時に、その実施の時期についても、特別な方法で示されました。

イエスはかつてパリサイ人に対して、「あなたがたは夕方になると、『空がまっかだから、晴だ』^{はれ}と言ひ、また明け方には『空が曇ってまっかだから、きようは荒れだ』^{はれ}と言う。あなたがたは空の模様を見分けることを知りながら、時のしるしを見分けることができないのか」(マタイによる福音書16章2、3節)と言われました。

自然界を観察すると、そこには神が定めた一つの連鎖があることがわかります。同じように神の計画が成就していく上にも一つの連鎖があつて、その連鎖が聖書の言葉の中に示されています。その連鎖を注意して見るときに、神の計

画のどこに私たちは今いるのかということを、はつきり知ることができるのです。

また神の国の出現を約束するイエスの再臨に先立って起こる出来事は、これが人類歴史のクライマックスとなつている事件だけに聖書の中に数多く示されていて、聖書の預言を研究する人々が見過ごすことがないようになっています。

イエスは、昇天される直前に、再臨と世界の終末に先立って起こる出来事について、弟子たちに示してくださいました。

①暗黒日

イエスは「しかし、その時に起る患難の後、たちまち日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ」(マタイによる福音書24章29節)と言われました。「その時に

起る患難」というのは、中世において、真に聖書を信じるクリスチャンに対して加えられた迫害を意味するものです。この迫害の期間は538年に始まって、1798年に終わる1260年間です*。

聖書には、「その時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起るからである。もしその期間が縮められないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選民のためには、その期間が縮められるであろう」（マタイによる福音書24章21、22節）とあります。迫害の期間となるはずであった1260年間は「縮められる」とイエスは言われましたが、実際に迫害がやんだのは1700年代の半ばすぎでした。これはルターを中心とした宗教改革の結果です。マルコによる福音書には、「そ

の日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ」（13章24節）と記されています。すなわち、その迫害期間の中で、しかも実際の迫害がやんだ後という、時のかなり細かい区切りが、「日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ」という現象の起こる時期として預言されていたのです。言葉を変えて言えば、1700年代半ばすぎから1798年の間に、この現象は起こると預言されていたのです。

1780年5月19日に、アメリカ合衆国ニューイングランド地方を中心として特異な現象が起こりました。この事実に関して多くの記録が残っていますが、たとえば、1883年版のウェブスター辞典には「暗黒日」の項があり、「暗黒は午前10時頃から始まり、戸外で数時間、普通の印刷物を読むこ

とができなくなり、家に灯がともされた」と書かれています。

当時のニューイングランドの多くの新聞がこの出来事を報道しています。天文学者ハーシエルは、「北米における暗黒日は、常に興味をもって読まれる驚くべき自然の現象の一つであるが、その原理は説明ができない」と言いました。

②落星

暗黒日の後に、再臨の前兆として起こる現象についてイエスは、「星は空から落ち」（マタイによる福音書24章29節）と言われました。また預言者ヨハネは、「第六の封印を解いたとき、わたしが見ていると、大地震が起って、太陽は毛織の荒布のように黒くなり、月は全面、血のようになり、天の星は、いちじくのまだ青い実が大風に揺られて振り落^{おと}されるように、

* ローマ法王が権威を確立した538年から権威を失墜する1798年までの1260年間を指しています。

地に落ちた」(ヨハネの黙示録6章12、13節)と幻で見せられたその終末の光景を記しました。

1833年11月13日に、有史以来最大の流星雨が北アメリカを中心に見られました。南は西インド諸島及びメキシコに至り、東はアフリカ海岸の東、経度61度、西は太平洋まで及びました。大英百科辞典によると、夜半から暁^{あかつき}にかけて、一つの場所で20万個以上の流星が見られたのです。これはしし座に放射点を持つているので、しし座流星群と呼ばれています。この大出現に刺激されて、その後の流星の組織的な研究が本格化されたと言われています。

地上における前兆

この他にも、社会を見渡すと、さまざまな前兆を見ることができ

「あなたがたは、終りの時^{おわ}にいのに、なお宝をたくわえている」(ヤコブの手紙5章3節)。

富の蓄積は最終の時代を特徴づけるものです。

「見よ、あなたがたが労働者たちに畑の刈入れ^{かりい}をさせながら、支払わずにいる賃銀が、叫んでいる。そして、刈入れをした人たちの叫び声が、すでに万軍の主の耳に達している」(ヤコブの手紙5章4節)。

労使間の争闘や貧富の差、格差社会なども、最終の時代のしるしの一つです。ストライキはこの預言の著しい成就なのです。

「ダニエルよ、あなたは終りの時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識

が増すでしょう」(ダニエル書12章4節)。

終末時代になると「知識が増す」というのです。19世紀に入って聖書に関する知識も増しました。しかしいちばん著しい知識の増加は科学技術の分野です。その増加は今日に至るまで、そのスピードを増しつつづけています。しかし知識が増したことによって人間は幸福になったかというと、必ずしもそうではありません。全人類を何度も滅亡させるに十分な核兵器を持つことになりました。科学技術を支える倫理、良識を失えば、この世界はおそろべき危険に直面するところになっていきます。

「戦争と戦争のうわさを聞くであろう」(マタイによる福音書24章6節)。

「民は民に、国は国に敵対して

立ち上がるであろう」(マタイによる福音書24章7節)。

「諸国民は怒り狂いました」(ヨハネの黙示録11章18節)。

20世紀になってから起こった戦争や内乱の数は、それ以前の8倍もあるそうです。これからも戦争の数と規模とは、ますます増大していくに違いありません。各国の軍備拡張を預言しているのは次の聖句です。

「もろもろの国民の中に宣べ伝えよ。戦いの備えをなし、勇士をふるい立たせ、兵士をことごとく近づかせ、のぼらせよ。あなたがたのすきを、つるぎに、あなたがたのかまを、やりに打ちかえよ」(ヨエル書3章9、10節)。

「まず次のことを知るべきである。終りの時にあざける者たちが、あざけりながら出てきて、自分の

欲情のままに生活し、『主の来臨の約束はどうなったのか……』と言うであろう」(ペテロの第二の手紙3章3、4節)。

主の再臨をあざける人々があらわれてくることも終末の一つのしるしです。ある無神論者が牧師に向かって、「世の終わりとか再臨とかいうのはおかしい。証拠があるなら示してほしい」とあざけりながら言ったとき、牧師はこの聖句を示して、「あなたはそのしるしです」と言いました。

道徳的退廃たいはいも世の終わりのしるしです。テモテの第二の手紙3章の初めにその姿が細かく記されています。

「このことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮

語する者、高慢な者、神をそしめる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、無情な者、融和しない者、そしめる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快楽を愛する者、信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう」(テモテへの第二の手紙3章1〜5節)。

イエスご自身の言葉の中に、もう一つの前兆について言及されています。「この御国みくにの福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」(マタイによる福音書24章14節)。現在福音を伝える働きは、全世界で進められています。セブンスデー・アドベンチスト教会だけを見ても、世界約

【設問用紙の送り方】

- ・設問用紙に解答、名前、性別、住所など必要事項を明記の上、設問用紙のホッチキスを外すか、コピーやスキャンなどをしてご返送ください。

※郵便で送る場合

- ・市販の封筒、またはテキストに同封して送られてくる返信封筒で、次の宛先までお送りください。

〒 241-8501 横浜市旭区上川井町 846
VOP バイブルスクール 行

1 課ずつではなく、一緒に送られてきた複数課の設問用紙をまとめてお送りいただいて結構です。

※ FAX で送る場合

- ・郵送同様、必要事項をご記入の上、解答面を間違わないように次の番号まで送信してください。

FAX 番号：045-921-2319

- ・設問用紙に、名前などの必要事項を明記いただければ、別紙（FAX 送付状）をつけていただく必要はありません。

※ E メールで送る場合

- ・解答面をスキャンするなどして、PDF または JPEG データでお送りください。内容が読み取れるか送信前にご確認ください。件名に「真理への道答案」と必ず明記してください。

アドレス：info@vopjapan.net

送信後、担当者から受信メールをお送りします。休日を除き72時間以内にメールが来ない場合は、受信できていない可能性がありますので、ご確認ください。

- ★どの方法で解答を返送していただいても、添削した設問用紙と次のテキストは郵送いたします。

質問 4 再臨の前兆となる預言の成就について、最も適切な説明は次のどれですか。

- ☐ 戦争や民族間の争い、道徳的退廃、科学技術の進歩、情報化社会の到来などにおいて、これらの預言は著しい規模で成就している
- ☐ 再臨の前兆の預言については、どの時代においても言えるもので、特に今日を終末と考える必要はない
- ☐ 再臨の前兆の預言とされるものは、もともと、エルサレム滅亡について言われたもので、今日に適用することはできない

ご意見、ご感想をお聞かせください。

フリガナ お名前	登録番号
ご住所 〒	
電話番号 ()	

第 15 課

VOPバイブルスクール 真理への道講座・設問用紙

質問 1 イエス・キリストの再臨に近いことは、何によって見極められますか。

- ☐ 天候を観測することによって
- ☐ 世界経済の動向を調べることによって
- ☐ 聖書の預言を研究することによって

質問 2 1833 年の流星雨が再臨の前兆だという根拠は、聖書のどこに書かれていますか。

- ☐ ダニエル書 12 章 4 節
- ☐ マタイによる福音書 24 章 29 節
- ☐ ヨハネの黙示録 11 章 18 節

質問 3 「見よ、あなたがたが労働者たちに畑の刈入れ^{かりい}をさせながら、支払わずにいる賃金が、叫んでいる」という再臨の前兆の預言は、どのように成就していますか。

- ☐ 労使間の紛争、貧富の差、格差社会
- ☐ 民主主義社会
- ☐ 独裁主義社会

15

2000か国以上で伝道を進めています。これらの国の中に全世界の人口の98パーセント以上が住んでおり、彼らは福音に接する機会が与えられています。あらゆる障壁を乗り越えて、福音は宣べ伝えられるのです。この預言が成就する日も、あまり先のことではないと思われます。

再臨及び終末の前兆について語られたイエスは、「いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになる」と、夏の近いことがわかる。そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい」(マタイによる福音書24章32、33節)と言われました。

聖書に示された終末の前兆は、今、著しい規模とスピードで現れ

てきています。私たちはこれらの出来事について注意深く観察しながら、今がどのような時であるのか、見失うことがないようにしたいものです。

再臨の待ち方

キリストは、憐れみをもって罪の世界を見守っておられます。しかし、いつかはキリストが、罪の歴史に終止符を打たれ、罪の問題に対する最終的解決をなされるときが来るのです。そして、公正と平和に満ちた世界を確立されるのです。

「愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるではありません。そうではなく、一人も減びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐してお

られるのです」(ペトロの手紙二・3章8、9節、新共同訳)。

「なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武装を着けようではないか」(ローマ人への手紙13章11、12節)。

私たちが時を知ること、私たちの生きてい

る時代がどのような時代であるかを知るとい
うことが、きわめて大切です。もし私たちの
信仰が眠っている状態にあるならば、今現実
に起こっている事態を察知することはできま
せん。「平和だ、無事だ」と言っている間に、
世界は確実に終末に向かっていているのです。

パウロは、「眠りからさめるべき時が、す
でにきている」と言っています。いわゆる私
たちの見る現実と聖書の語る事実とはギャッ
プがあるように思えることがあります。むし
ろ断絶があるとさえ言ってもよいでしょう。
しかし、信仰の目を持って見るならば、聖書
の語る事実こそが、究極のリアリティーであ
ることを悟ることができます。

確かに闇が私たちのまわりを覆っています。

しかし信仰の目を持って見るならば、夜は決
していつまでも続くのではなく、必ず夜明け
が来ることがわかります。夜明けは近づいて
います。だからこそ私たちは、いつまでも眠
り続けるのではなく、新しい朝を迎える者と
してその準備をすることが求められているの
です。

（『基礎講座13』より）

瞑想のことば

救い主は来臨のしるしをお与えになっている。のみならず、主はこれらの最初のしるしが現れる時を定めておられる。「しかし、その時に起る患難の後、たちまち日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。また、彼は^{みつかい}大いなるラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう」（マタイによる福音書 24 章 29～31 節）。

法王による大迫害が終わると、日は暗く月はその光を放つことをやめると、キリストは言明された。次に星が天から落ちるのである。そして主は言われる、「いちじくの木からこの^{たとえ}譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい」（マタイによる福音書 24 章 32、33 節）。

キリストはご自分の来臨についてしるしをお与えになった。われわれはキリストが戸口まで近づいておられる時を知ることができると、主は言明しておられる。主はこれらのしるしを見る人々について、「これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない」と言われる（マタイによる福音書 24 章 34 節）。これらのしるしは、すでに現れた。いまや主の来臨が迫っていることをわれわれは確実に知っている。「天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない」と主は言われる（マタイによる福音書 24 章 35 節）。

続きは、『各時代の希望（下巻）』（文庫判、エレン・ホワイ特著、福音社）、第69章「オリブ山上で」をお読みください。



聖書の視点で歴史を見直すと、
今をどう生きるかを学び、
明日への希望を見いだします。

明日への希望

エレン・G・ホワイト著

A5判／1,984頁

収録されている本——人類のあけぼの(上・下)、国と指導者(上・下)、
各時代の希望(上・中・下)、患難から栄光へ(上・下)、各時代の大争闘
(上・下)、キリストの実物教訓、キリストへの道、祝福の山。



キリストへの道(改訂第3版文庫判)

エレン・G・ホワイト著

文庫判／184頁

手軽に読めます！

各時代の希望

エレン・G・ホワイト著

3巻セット

文庫判／上巻496頁、中巻512頁、下巻504頁



聖書のことばは、

わたしたちを励まし、助け、希望へと導く宝です

みことば手帳

手帳サイズ(横91mm×縦156mm)／192頁



みことば手帳2 全員参加伝道編

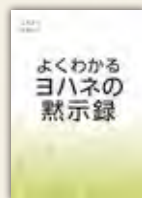
手帳サイズ(横91mm×縦156mm)／176頁

聖書を直接学ぼう！

よくわかるヨハネの黙示録

金棋坤著 柳鍾鉉訳

A5判／200頁



発行：福音社

福音社のオンラインショップ <https://www.fukuinsha.com>

表紙写真metha/PIXTA

VOPバイブルスクール 真理への道講座

第15課 終末は近いのか

2017年12月15日 初版第1刷発行 2022年7月15日 初版第3刷発行

〒241-8501 横浜市旭区上川井町846 045-921-1416(電話) 045-921-2319(Fax)

本書を無断で複写、複製、転載することを禁じます。

本書は、『真理への道』(山形俊夫著、福音社、1962年発行改訂版)を底本として、聖書通信講座用に編集しました。

本文中の聖句で特記していない箇所は日本聖書協会発行『口語訳聖書』を使用しています。

1000p

真理への道講座

- 第 1 課 人生の謎
- 第 2 課 目に見えない世界
- 第 3 課 解決の鍵、聖書
- 第 4 課 世界と生命の起源
- 第 5 課 神
- 第 6 課 人生を暗くするもの
- 第 7 課 イエスの生涯
- 第 8 課 放蕩息子
- 第 9 課 だれでも新しく生まれなければ
- 第 10 課 足りない一つのもの
- 第 11 課 人生の苦難
- 第 12 課 主にゆだねた生活
- 第 13 課 聖書の歴史観
- 第 14 課 世界の将来
- 第 15 課 終末は近いか
- 第 16 課 安息日
- 第 17 課 死の彼方
- 第 18 課 使命を持つ教会



VOPバイブルスクール